



ほんごう子ども図書館（お話し会）

## 今号のもくじ

ページ	主な内容
2～3	決算審査・補正予算審査
3～10	一般質問 15名の議員が質問
11～12	常任委員会報告

ページ	主な内容
12～14	特別委員会中間報告など
15	第7回定例会議決結果
16	わがまちに望む夢



# 決算特別委員会の概要

決算特別委員会は、平成28年9月29日から10月4日までの4日間にわたって開会し、平成27年度の決算審査を行い、認定しました。  
この度は、決算特別委員会での主な質疑の内容を紹介いたします。

## 決算特別委員会（質疑の抜粋）

### 〔総務費〕

#### プレミアム付商品券発行事業

Q プレミアム付商品券事業の運営方法について問う。

A 商品券は千円12枚綴りを1冊1万円で購入し、計6万5千冊発行した。購入機会の均等を図るため、1人5冊までとした。

Q 市内の消費効果について問う。

A 額面総額7億8000万円に対し、商品券に現金を足して購入した金額はアンケート結果から1・44倍であり、消費喚起は十分あった。

### 〔衛生費〕

#### 平日・夜間の小児救急診療の運営体制について

Q 深夜の小児救急の受け入れは、どこでしているのか。

A 医師会病院併設の急患センターでは、平日午後7時から午後10時まで

は開業医等が順番で診療を行っている。午後10時以降は、二次救急病院で小児科医が夜間当直している場合を除き、JAの尾道総合病院で対応することになる。

夜間の受診では、電話で#8000番で子供の状態を伝えて相談するという特定の電話番号がある。

### 〔商工費〕

#### 備後圏域事業

Q 産業支援コーディネーター派遣事業の実績と評価はどうか。

A 実績は計画を下回ったが、新商品開発・生産性向上に結びついた。

#### 緊急雇用創出基金事業

Q 行くとハッピーになれる街三原事業のイベントプロデュース人育成事業の内容と成果はどうか。

A イベントの企画調整の研修やイベント運営の

経験をすることによって、4名のうち1名は起業した。

Q スイーツ・カフェ振興事業の成果はどうか。

A 参加事業者のうち19業者で在職者66名の処遇改善が実現し、半数の12事業者で売り上げが拡大した。



スイーツ・カフェ振興事業のスイーツ

### 〔教育費〕

#### 就学援助費

Q 小中学校それぞれの認定率は何%であったのか。

A 小学校では16・29%、中学校では18・58%、合

わせて全体で17・05%であった。

Q 体育実技用具費という項目は、本市の27年度項目に入っているか。

A これは柔道着とか、体育のときに使用する体操服、ジャージ等であり、学用品の中に含まれており、新入生のときに購入される費用に含まれている。

### 〔討論・採決〕

#### ・反対討論

地方債残高は県内平均より市民一人当たり10万円も多く、市民のくらしに負担がかぶさっている。本郷町での3小学校の統合や新庁舎建設推進など大型事業推進し、住民合意なきまちづくりを進めた。

#### ・賛成討論

「元気な三原」の実現に向けて、観光を柱とする新たな取り組みや、防災対策では安心安全なまちづくりのための整備が進められた。さらに教育環境整備が図られ、ハード・ソフト両面での着実なまちづくりが行われた。

# 平成28年12月定例会の概要

12月定例会は、平成28年12月6日から12月19日までの14日間の日程で開催しました。

今定例会では、2億9131万円の一般会計補正予算（第6号）案などを審議し、それぞれ可決、認定しました。また、特別委員会から3件の中間報告を行いました。

この度は、補正予算特別委員会での主な質疑の内容を紹介いたします。

## 補正予算特別委員会（質疑の抜粋）

### 〔民生費〕

#### 保育所運営助成事業

Q 私立保育所及び私立認定こども園に対する保育業務支援システム導入補助が未入所児童の解消につながる理由を問う。

A 未入所児童を解消するために保育士の採用募集をしても、応募が足りない。管理するシステムを導入して保育士の負担軽減により、応募者が増えることにつなげたい。

Q 未入所児童の解消の見通しを問う。

A 未入所児童は12月1日現在で108名であり、ゼロにするのはかなり厳しい。解消に向けて保育士確保が最優先課題であるが、そのためには保育士の労働環境も含め処遇改善が最も必要である。

### 〔衛生費〕

#### 健康づくり推進事業

Q 健康診断事業で、集団健診、個別健診の受診者は増加しているが、個別健診のうち、大腸がんの検診者が昨年に比較して757人減少している。その理由とその対処について問う。



集団健診を行う検診車

A 大腸がんの検診は、平成23年度から5カ年間、検診の無料クーポン券事業を実施してきた。この事業が終了したことが要因と考えられる。検

診促進対策としては、特定健診とがん検診の未受診者に受診勧奨のはがき通知や電話連絡をする予定にしている。

Q 今後、無料クーポン券を市として考えているか。

A 大腸がんの無料クーポン券を復活させるかどうかは、検討したい。

### 【教育費】

#### 学校トイレの改修

Q 三原小学校中学校舎のトイレを2250万円で改修工事を行うが、今後の小中学校トイレの改修計画と事業費はどうか。

A 現在の学校トイレの洋式化率は小学校が60・86%、中学校が55・82%となっている。

今後の改修計画は小学校5校6棟で9360万円、中学校2校2棟で約1億円と見込んでいます。



三原小学校のトイレ

## 平成28年12月定例会 一般質問

# 市政を問う

今定例会では15人の議員が一般質問を行いました。

詳細な内容は、会議録を製本の後、三原市議会事務局、市役所情報公開コーナー、三原市中央図書館に置いています。また、三原市ホームページでも会議録、本会議の録画映像を閲覧できますのでご覧ください。

(会議録の製本には、議会終了後おおむね3カ月を要します。)

HPアドレス <http://www.city.mihara.hiroshima.jp> → 市議会 → 会議録検索  
映像ライブラリー

## 市政について



### 仁ノ岡 範之 議員

問 天満市長は、この4年間、市民福祉の向上と市政発展に尽力されてこられた。この4年間の実績と今後の課題について、市長の素直な思いを問う。

答 平成25年4月の市長就任以来、「元氣な三原」の実現に向け取り組んできた。

26年度に策定した「三原市長期総合計画」において、「活力」と「安心」を基礎とした「行きたい住みたい つながりたい 世界にはばたく瀬戸内元氣都市みはら」という将来像を定めた。

27年度には、本市の人口減少対策を着実に進めるため「三原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「働く場づくり」「交流人口拡大」「子供・子育て充実」「市民の健康づくり」「住み良さ向上」の5つ

の施策への重点的な挑戦を通じて「元氣な三原」づくりに取り組んだ。その結果、新庁舎建設や中心市街地活性化、新工業団地建設に向けて方向性に筋道がついた。また、学校耐震化や中学生への医療費助成の拡大、こども園整備などの子供・子育て施策の充実、観光を

本市を支える産業にする取り組みとしての「瀬戸内三原築城450年事業」をはじめ、観光行政の強化、工業団地への企業誘致や商業・農林水産業への支援を通じた産業振興、少子高齢化等で疲弊した地域に対する中山間地域活性化対策、市民参加による事業レビュー実施等行政改革の推進など、私が目指しているまちづくりに向けて、一定の成果は

見えはじめていると考えている。

一方、今回の国勢調査では人口が10万人を割る結果となった。人口減少に歯止めをかけるところまで至っていない点は、課題として認識している。

問 課題解決への取り組みや将来に向けた魅力あるまちづくりを行うため、次期市長選に出馬されるのか。

答 課題解決を「やり遂げなければならぬ」という強い思いがある。私にさらなる「元氣な三原」づくりに取り組むことをお許しいただけるならば、ぜひ、引き続き市政運営を担いたい。



新庁舎完成イメージ図





たかき たけこ  
高木 武子 議員

## 本市の教育の取り組みについて

**問** 小学校教育の中で、一日の授業時間の割り振りはどこで決められるのか。

**答** 一日の学校生活の時間は校長が決める。午前中に4時間の授業を実施しており、本年度小学校1校において、午前中5時間の授業を実施している。

**問** 5時間授業をすることで、児童、教職員に負担がでないのか。給食が共同調理場で調理されているので、給食を食べる時間が少なく、残菜が増えてはいないか。

**答** 先生は、放課後にまとまった時間を確保し効率的に業務遂行ができる。児童は地域のボランティアの協力により、個別指導で学習に取り組んでいる。給食時間は従来どおりで、現在は残菜も増えていない。

**問** 本年度は、午前中5

## 健康寿命を延ばそう！の取り組みについて

**問** 市民、行政、業者が一体となって連携する、

守る健康、創る健康について、健康づくりとまちの活性化について、取り組み姿勢と見解を問う。

**答** 健康マイレージ事業については、本年4月から三原商栄会連合会と連携して、「やささだるマン健康スタンプラリー」を実施している。健康グッズやご当地ICカードが当たる取り組みをしている。

**問** (仮称)広島県ヘルスポイント制度の創設に参加してほしい。

**答** 県の制度への参加は検討する。



健康スタンプラリーのスタンプカード



いとう かつや  
伊藤 勝也 議員

## 三原城築城450年事業に関する関連事業について

**問** ①築城450年事業にかかわり、誘致するイベントや会議等があるか。また、誘致のための補助制度はあるのか問う。

**答** ①泊以上の団体旅行者等に助成する補助要綱等を検討する考えはないのか問う。

**問** ①本市で開催するイベントや会議については、雪舟サミットや中国地方都市美協議会総会、備後フェスティバルの開催などの誘致を予定している。補助事業については、推進協議会の構成団体からの提案事業に30万円までの補助を、また、公募審査の上、本事業にふさわしい市民活動事業に5万円までの補助を予定している。

**問** ②観光客が増えることは、本事業の目標である観光消費額の増に大きく

寄与する。現在、大手旅行代理店では、城めぐりや食をテーマにしたバスツアーが企画されているが、本市への観光客のほとんどが日帰りの観光客であり、宿泊助成をすることで観光客が増加する可能性があるので、宿泊を伴う団体ツアーを企画する旅行者と商品開発を行うなどの方策を研究する。

**問** 本事業を千載一遇のチャンスと捉え、本市をもっと強烈にアピールし、売り出す手法を開発して頂くことを要望する。

**答** 検討する。

**問** コミュニティセンターについて

**問** 地域住民の方から、船木コミュニティセンターの利用料が高いと指



船木コミュニティセンター

摘がある。設置目的の異なる公共施設設置条例の文章表現の違いや施設の特性の違いを無視し、三原市コミュニティセンター設置及び管理条例として一本化し、その施設を大型施設整備として捉え、施設利用負担を地域住民に求めている。

公平な利用料金といえるのか問う。

**答** 船木コミュニティセンターの利用料金については、公共施設等総合管理計画の類型別実施計画の策定の中で、市内の類似施設、同地域の類似施設との整合性等を改めて検証し、より適正な利用料金の設定を検討する。



まさひら ともはる  
政平 智春 議員

## 戸籍謄本等不正取得防止に向け —登録型本人通知制度の周知を—

**問** 全国的に戸籍謄本等不正取得事件が続発をしているが、これらの司法書士、行政書士など、罪に問われた関係者が本市でも取得した事実があるか、また、その件数は何件か。

**答** 平成23年、本市における戸籍謄本及び住民票の不正取得は、行政書士1名が郵送により6件の戸籍謄本及び住民票の写しの請求を行い、7通を交付している。

**問** 本市戸籍関係の部署が収集する個人情報の取り扱いは、個人情報保護に万全を期すために、どのような措置がとられているか。

**答** 市民課が収集する主な個人情報、国によりその保存方法などの管理方法を定められており、市民課で、個人情報の漏えいを防止するため、施

錠できる保管庫で適切に管理している。

**問** 今日まで8土業の業務上請求に対して不正請求を防止するため、どのような対策を実施しているか。

**答** 職権による請求に使用する職務上請求用紙は、事件後、偽造防止対策が施され、その用紙の発行も厳しく管理されている。請求時には資格、当該事件の種類、代理手続、利用目的等を確認するとともに、申請者本人の確認を厳格に行い、交付している。

**問** 本人通知制度が、施行から4カ月過ぎたが、今日段階で登録者数は何人か。その人数に対する見解は。

また、本制度の意義、目的が市民に十分浸透しているとはいえない。登録を増やすための取り組み

みは。

**答** 登録者数は、11月末現在、125名だ。開始は県内9番目だが、登録者数が100名を超えた自治体数は、本市を含め4市だ。これは、3カ月連続で行った広報の周知等の効果がでてきている。

制度の実効性を高めるために、今後も引き続きホームページへの掲載、広報紙への定期的な掲載やポスター、チラシの公民館等公共施設への掲示、人権学習会でのチラシ等の配付などを継続的にを行い、登録者数の増加に努める。



## 市道整備について

**問** 10年以上未解決の箇所現状について問う。

**答** ①市道整備について、現在、長期化している路線あるいは未着手の路線は4路線あり、いずれの路線も関係者等の同意を得るために長い期間を要している。

②市道田野浦1号線については、地域間を連携する道路であり、県道の混雑時には迂回路としても利用されるなど重要な路線である。



市道田野浦1号線

しかし、道路幅員が狭小で、離合も困難なため、円滑な通行の確保等継続的な課題であると認識している。今までの経緯を踏まえ、今後、地元



しちかわ よしあき  
七川 義明 議員

## 中心市街地活性化事業について

**問** 空き店舗対策事業試行後の現状と空き店舗対策のさらなる改善について問う。

**答** 空き店舗を活用した新規出店にかかわる改装費、家賃補助の支援を平成22年度から開始し、11月末現在、飲食店を中心に45件の新規出店を支援しており一定の成果をあげている。

また、今年度から特別創業支援事業終了者には、店舗改装費の上乗せ補助及び創業資金の2年間全額利子補給等の支援強化を行っている。

商店街の既存店舗の支援については、地域ポイント事業、後継者勉強会、街路灯の整備など、商店街主体の事業に対し包括的な支援強化を図り、積極的に支援をしていく。

●その他の質問事項  
観光事業の条件整備について

町内会等と連携し、対応を再検討していく。





谷杉 義隆 議員

### 貯蔵庫整備事業は

**問** 大和町が合併時に、農業振興の柱と位置付けた炊飯・惣菜加工施設整備事業は、事業実施が困難と判断され、大和地域審議会で代替事業の協議を行い、7項目の要望が出されている。この中で地元産の米・大豆・野菜等を用いた加工施設及び野菜等を長期保存できる貯蔵庫の整備として、5項目を平成26年1月に要望したにもかかわらず、3年経過した現在、何も進んでいないが、貯蔵庫の事業実施時期と予算規模・供用開始はいつになるのか。

**答** 合併時の農業振興の柱として新市建設計画に位置付けられた事業であるが、実現が困難となり地域審議会に諮り、計画の変更について協議を重ねた結果、代替事業として農産物貯蔵施設を整備することに決定した。増田製粉(株)が米粉の製粉工場を新設することが決定したことから、まずは米粉用米の貯蔵施設の建設を来年度着手。野菜の加工業者や学校給食に対して、安定的に野菜を供給するための貯蔵庫は、できるだけ早い時期に供用開始に努める。予算規模は2億9千万円を予定している。

### 有害鳥獣対策 予算の成果と課題

**問** 本年度は、鳥獣被害防止総合対策交付金事業を合わせた4685万3千円の予算が計上されている。

**答** この中で、重点的な取り組みとしてモデル地域を募り、有害鳥獣対策事業を実施しているが、現在までの成果と課題について問う。



大規模柵の設置の様子

**答** 年々増加する有害鳥獣被害対策に対応するため、全国の成功事例を参考に、26年度から集落全体で取り組む有害鳥獣被害対策に取り組んでいる。

各地区でモデルとなる地域を選定し、有害鳥獣が出にくい環境づくり、効果的な防護柵・捕獲にに取り組んでいる。その成果は収穫が困難であった田畑において、収穫出荷まで結びつけたが、他の地域への普及が進まず苦慮している。

### 医療費削減の取り組みについて



平本 英司 議員

**問** ①ジェネリック薬品の使用促進の効果はどうか。

②食生活の改善に向けた取り組みはどうか。

③健康づくりの取り組みはどうか。

**答** ①平成27年度は削減額1億1400万円、効果額が8300万円と医療費削減の効果はでている。

②「食育のまち三原」をキャッチフレーズに、生活習慣病の発症予防、重症化予防につながる食生活の実践を掲げ、食生活の改善に取り組んでいる。

③「ラジオ体操とウォーキングのまち三原」をキャッチフレーズに運動普及リーダーを育成し、活動を支援している。

**問** 医療費削減の具体的な提案がしたい。

市内の飲食店等と連携し、突き出し一品料理を野菜中心のものにかえて

頂くことや、割り箸に「野菜から」と刻印して頂くことである。

また、インパクトのあるキャッチフレーズも必要だが、今後、本市が糖尿病対策に力を入れれば、医療費削減に効果がでると考えるがどうか。

**答** 本市では、糖尿病や高血圧症の患者が多く、27年度に策定した三原市国民健康保険データヘルス計画に基づいて、糖尿病や高血圧症予防事業に



ベジファースト (野菜から先に食べよう)

取り組んでいるところである。

提案の野菜から食べようというベジファーストは、主食より先に食物繊維を多く含む野菜を食べることで、血糖値の急激な上昇を抑制し、糖尿病の予防効果も期待できる。

次年度は、健康・食育みはらプランと三原市国民健康保険データヘルス計画の見直しの年に当たることから、ベジファーストの導入についても検討し、市民にとってインパクトのあるキャッチフレーズ等についても検討していく。

### ドローンの活用について

**問** ドローンの活用は、今後、増えてくることを予測される。

他の自治体に先駆けてドローンを購入し、運用してはどうか。

**答** 今後、各部署において、こういった活用が考えられるのか調査を行い、市内部の調査結果から活用法や利用頻度等を把握した上で検討したい。



しょうた よういち  
正田 洋一 議員

### 倒壊危険空き家の次の対応は

**問** 本町の倒壊神社の解体が終了し、危険が回避された。市職員の真摯な対応に感謝する。しかし、本件は一つの問題解決であり、次の対応、市内各地の倒壊危険空き家の解決をどのように行うのか聞く。現在は、市民や町内会からの通報に対して対応を行っているが、計画策定後、どうするのか。また、所有者を危険空き家の除却へ導く支援制度を検討したらどうか。

**答** 本件は、昨年度から実態調査を行っており、今年度中に終了する。空き家を低度、軽度、重度1、重度2にわけ、放置すると危険である重度2については、通報に対してだけではなく、積極的に指導などを実施し、除却を推進する。危険空き家の解体工事の一部を補助する制度について、検討する。

**問** 空家対策特措法の意義は、除却にあるのだと思う。土地には価値があるが、活用しなければ不良債権なので、除却費用を差し引いて、手放せるような制度設計をされたらどうか。

**答** 除却をいかに進めるかについては、他都市には、宅建協会と協定を締結して、不動産取引の活性化を進める自治体がある。事例を収集して、来年度以降実施していきたい。

### 三原城の堀の碍子不法投棄の顛末は

**問** 三原城跡堀への碍子の不法投棄がニュースとなった。投棄したとされる企業が片付けたと新聞紙上で知ったが、その企業との事の顛末について、市民へ説明をすべき

と考えるが、見解を求め

る。

**答** 本件については、今年度実施のかいぼりや廃棄物撤去工事のため、3月に堀の水を抜いた時点で白い陶器が投棄されていることを確認したが、碍子とは特定していなかった。昭和30年代頃、堀の西側に(株)中電工の社屋があり、会社に連絡をしたところ自主回収の申し出があった。不法投棄は法令違反であり、遺憾であることを伝えたところ、市長、教育長へ経過報告及び謝罪が行われた。市民への説明については、適時適切な広報、情報提供を図っていきたい。



かいぼりの様子

### 駅前西館への歴史民俗資料館移設について

**問** 瀬戸内三原築城450年事業で、駅前に「みはら歴史館」を開設したことは、市民からも好評を得ている。

しかし、空間が広く器財がないことで、歴史的な感覚が伝わってこない。そこで、三原歴史民俗資料館を、みはら歴史館に移設してはどうか。

**答** 現在の歴史民俗資料館は、建築後40年が経過し、老朽化に加え狭く、展示、保管、調査研究するスペースが不足している。みはら歴史館は、築城450年事業の拠点としての整備が目的であり、



りきた ちゅういち  
力田 忠七 議員



みはら歴史館

事業期間終了後の継続や形態については、利用状況をj見て判断したい。

### タコの宿場町の整備について

**問** 糸崎港を拠点にした松浜地区に、「タコの宿

場町」を整備して、タコのまちをPRしてはどうか。

**答** 本市が取り組んでいる「三原食」ブランドとして、三原タコを広くPRする上で、にぎわいづくりや経済、観光の活性化につながるまちづくりの発展に寄与する提案と受け止めている。

三原市観光戦略プランにおいては、今後、整備が検討されている松浜地区が観光資源として観光客の受け入れ体制の強化につながるかと捉えている。

松浜地区の活用については、整備の進捗状況を確認しながら、どのように本市の観光施設に反映させ、受け入れ体制の強化を図れるか、研究する。

### その他の質問事項

- 小早川文庫の制作について
- 三原市美術館建設について
- 道の駅みはら神明の里に足湯の設置について
- 観光バスの駐車場確保について





寺田 元子 議員

### 市民の願いに反する駅前複合施設は断念を

**問** 私が実施したアンケート調査では、駅前に複合施設などの新たな箱物について、167人の回答中、反対が79%、賛成が10%という結果だった。

**答** 図書館を望む回答は5%に過ぎず、公園・広場の活用希望が55・4%とトップを占めている。市民が望む駅前の姿は、はっきりしているのではないか。

**答** 駅前東館跡地活用は、有識者による検討、市民への意見聴取、関係団体との意見交換などを踏まえ、市議会に設置された特別委員会にも説明



駅前東館跡地

20年間で54億円の投資について、市民は失敗だと捉えているが、市長の認識はどうか。

**答** 議員が実施したアンケート結果で反対意見があることは受け止めているが、さまざまな観点からの開発を検討した方針であり、変更する考えはない。

### 国保税の引き下げを

**問** 市民のくらしは、重い国保税や介護保険料、消費税負担で厳しくなるばかりだ。国保基金の活用や来年度こそ本市独自の繰り入れを実施し、国保税の引き下げを市長は決断すべきではないか。

**答** 国保税の抑制目的の一般会計からの繰り入れは、行うべきではないと考えているが、加入者にとっては国保税の負担が大きくなっている中、一般会計からの法定外繰り入れも一つの検討事項であると考えている。

■その他の質問事項  
●新斎場建設地は住民合意で



萩 由美子 議員

### 小早川隆景公の呼び方について

**問** 小早川隆景公は三原の基礎を築いたといえる知将であり、三原築城450年事業の看板たる人物である。「公」を付けて呼ぶように統一してはどうか。

**答** ふるさと教育においても敬称をつけてほしい。郷土の偉人を大切にすることは、三原に誇りを持ち、三原を愛する心を醸成すると考えるが見解を問う。

**答** 歴史上の人物には敬称を省略するのが通例である。築城450年事業をきっかけとして市職員・子供たち・市民が三原の魅力を学び、知る取り組みを検討していく。瀬戸内三原築城450年事業推進事業については、協議会において、具体的な事業内容に応じて敬称、呼称の使用を検討する。

### 災害時対応設備の設置状況について

**問** 昨年もちこちで大きな地震が発生した。いっどこでも地震は起きるかもしれないと備えておく必要がある。

**答** 災害時に停電や断水してトイレが使用不能になるのは、環境悪化・精神的ストレスの原因になる。どのように対応しているのか問う。

**答** かまどベンチや災害時対応自販機の設置状況はどうなっているか。  
**答** 拠点避難所に断水時に使用する簡易トイレ及び処理セットの備蓄を進めている。本年度、マンホールトイレを南小学校に19基、宮浦中学校に5基設置した。今後も整備を進める。

また、やまみ運動公園にかまどベンチ8基、かまどテーブルセット2



かまどベンチ

災害時対応自販機は、設置事業者や飲料メーカーに働きかけていく。

基、松浜第2公園にかまどベンチ2基を設置している。  
災害時対応自販機については、本市が所有する施設には設置していない。

**問** マンホールトイレは市民に広く周知し、自立・使い方を訓練してほしい。  
**答** 災害時対応自販機は、飲料メーカー等関連会社と災害支援協定を結ぶことによって設置して頂けるので、市から働きかけをしてはどうか。

**答** マンホールトイレは今後も整備を進めるとともに、市民への周知に努める。自主防災組織と設置訓練も行う予定である。





安藤 志保 議員

### 事業レビューについて

**問** 今年度で3回目となるが、成果はどうか。

**答** 職員の事業レビューに対する理解が進み、事業を目的から見直すなど、職員の意識改革が進んだ。当日の議論では、事務改善に向けた有意義な指摘が数多くあった。

**問** 事務改善を進めていく体制はどうか。

**答** 各担当課が主体的に取り組むが、その過程で判明した課題を把握し、庁内で共有する仕組みを整備するとともに、課題解決に向け支援する役割を経営企画課が担う。

**問** 継続して行われるか。引き続き来年度も実施し、より大きな効果を目指したい。

### 市民総働のまちづくりについて

**問** まちの課題解決に

は、多様な主体が総じて協働することが重要。コーディネート機能、支援体制の充実をどう進めるのか。

**答** 第2期市民協働のまちづくり推進計画において、住民自治組織や市民活動団体、地域団体など多様な団体間や行政との間をつなぐコーディネート機能を持った中間支援組織の強化を掲げており、取り組みを検討していく。

**問** 中間支援組織の機能強化を早く進めなければ、全庁的に施策を進める上での将来リスクになるのではないか。

**答** 市民協働を長期総合計画基本目標の一丁目一番地に掲げている。協働が全ての施策を進める上でベースとなるという認識を持って対応

する。

**問** 築城450年事業のランドデザイン作成は、市民と三原の未来を考える機会になるのか。

**答** グランドデザイン作成は、市の中心部の目指す景観像などを見える化するもの。現在、案を作成しており、築城450年事業において公表する。将来目指すまちの姿を市民と一緒に検討、修正していく過程を通じ、イメージ共有とまちづくりを考える場を持ちたい。

**問** 若い人に住み続けたまちと思ってもらえることが重要。年代別の意見集約されるか。

**答** 若者の参画を促すことや幅広い世代での検討は大事な考え方。事業実施に向けて参考とする。

第2期三原市市民協働のまちづくり推進計画 (表紙イラスト)



亀山 弘道 議員

### 教育委員会制度について

**問** 文部科学省は、教育委員会制度の特性として「住民が専門的な行政官で構成される事務局を指揮監督する仕組みにより専門家の判断のみによらない、広く地域住民の意向を反映した教育行政を実現」としている。三原市教育委員会は、十分にできているのか問う。

**答** 幅広い分野から選出された5名の教育委員がその役割を担っている。加えて、民意を代表す

る市長が総合教育会議を開催し連携を図っている。

**問** 教育委員5人を住民の直接選挙で選出していた時と違い、5人の委員に地域住民の意向を反映することの責任を負わせることは気の毒であり、無理だ。住民の意向の反映が十分でない中で被害を受けるのは子供たちだ。教育委員の負担を軽くする意味からも、住民の意向を反映するため「子ども・子育て会議学校版」のような補助的な手立てがいろいろないか問う。

**答** 今後も校長会・PTA連合会・各種団体・アンケート等広く市民の意見を求めていく。



三原市教育委員会制度のイメージ (2017年4月から)

### 地域公共交通の事業化について

**問** 今年10月、バスのダ

イヤ改正で通学に支障が生じた高校生や中心市街地の往復が1日仕事になった地域が生まれた。本市は、昨年3月「三原市地域公共交通網形成計画」を作成した。行政の体制は整ったが、次にどうすれば、本郷町のようにデマンドタクシーが動き出すのか。行政から働き掛けをするのか、地域から機運が高まるまで待つのか問う。

**答** 地域住民が主体的に導入を進めることができれば、市内全町内会へ概要版を回覧し周知を図った。町内会等から相談があれば、市・事業者・町内会で検討をはじめることになる。

**問** 回覧板とホームページで公開だけでは周知に課題が残る。事業化に向けての説明を求めたい。

**答** 再度、対象地域に概要版を回覧し、出前講座の開催などにより、周知に努める。



まつうら よしかず  
松浦良一 議員

### 農業振興計画について

**問** ①減反廃止に伴う生産者並びに農業団体等、産地育成について問う。  
②集落法人、認定農業者の実態と育成強化について問う。

**答** TPPに係る市の対応策について問う。

**問** ④農地パトロールにおける成果と荒廃地の今後の対応策を問う。

**答** ①米の生産調整、いわゆる減反は、2年後の30年産から廃止され、その後は需給動向などの情報に基づいて生産者や農業団体が、自主的に生産調整に取り組む方式に移行されることになっている。

**問** ②市内の集落法人は36法人、認定農業者は69人で、集落法人の育成強化については、法人の合併も視野に入れた法人間の連携をする方向で協議を始めている。  
③TPP（環太平洋連携

えている。  
現在は、本町古浜線をはじめとした3路線が事業中で、これからの進捗状況に応じて、今後、検討していく。



本町45号線（本町通り）

### 市街地の環境整備について

**問** 市道本町45号線の道路改良について問う。

**答** 本路線の約290mの現況は、幅員は6m程度で狭い部分は5・4m道路の両側に電柱や街灯など電柱10本、街灯柱27本あり、通過交通が難しい状況で課題であると捉

**問** 市道港町5号線のシャッター街、歩道の整備はできないか。

**答** 本路線のハード整備は、歩道のバリアフリー化も含め完了しており、空き店舗対策については、4店舗の新規創業を支援しているが、にぎわいの創出までには至っていない。通行に支障をきたすテント、歩道上の自転車、看板の撤去や地域が主体となった環境改善支援に取り組む。



あらい しずひこ  
荒井静彦 議員

### 水道部の海外事業進出について

**問** 本市水道部のアセツトマネジメントによると、これから40年間、毎年16億円の費用（合計639億円）が水道施設の更新に必要だとされている。この費用を現在の水道料金だけに頼るのではなく、本市の水道事業を積極的に海外へ展開していき、その収益を当てはめることはできないか。

**答** 本市の水道事業は、今後、多額の投資を必要とする事業を控えており大変厳しい状況で、新たなビジネスモデルを検討する必要があると認識している。本市の有する水道技術をもとに海外進出をしていくには、これらの諸条件を踏まえた上で、検討したい。

### 清掃工場の長寿命化とごみの減量化について

**問** 三原市清掃工場のごみ減量化について

理には収集運搬費、中間処理費、最終処理費など多くの費用が必要となるし、地



三原市清掃工場

**問** 焼却炉の長寿命化事業が総額21億円の事業費をあて終了する。これ以上手に使えば、15年間の延命化が計れるが、焼却炉を傷めないように使うには、火を絶やすことがないようの方が良いのではないか。そのためにもごみ減量化は必要としないのではないか。

**答** 焼却炉の立ち上げを繰り返すことで、耐火煉瓦の劣化が進むが、保守点検やメンテナンスのため休炉期間は必要であり、その回数をできる限り減らすことで劣化を抑えることができるし、立ち上げ時に使用する重油の使用量も大幅に削減できる。

**問** 焼却炉の立ち上げを繰り返すことで、耐火煉瓦の劣化が進むが、保守点検やメンテナンスのため休炉期間は必要であり、その回数をできる限り減らすことで劣化を抑えることができるし、立ち上げ時に使用する重油の使用量も大幅に削減できる。

**答** 問題点を整理し、対策等を報告する。

球温暖化防止対策は世界規模で取り組む課題であり、単に経費削減だけの議論にとどまらない。  
また、平成31年から久井町及び世羅町の可燃ごみを受け入れる予定であり、ごみの減量化、再資源化の促進に理解と協力を頂きたい。  
**問** 市民は、ごみの再資源化や有料のごみ袋の使用等をして、ごみの減量化に協力をしているが、天満市長に関連のある会社や違法操業により他市町からのごみを収集し、本市の清掃工場へ搬入しているらしいが許されるのか。



# 常任委員会報告

総務財務委員会

## 12月定例会付託議案審査

議第126号「三原市税条例等の一部改正について」

【要旨】地方税法等の一部を改正する等の法律及び所得税法等の一部を改正する法律の施行に伴い、本市条例に所要の整備を行うもの。

### 【主な質疑の内容】

問 条例改正において創設される、医療費控除に関する特例の内容は。

答 控除を申告するには、特定健康診査、予防接種、定期健康診断、健康診査、がん検診のいずれかを受けていることが前提条件となる。

また、控除の対象となる医薬品、いわゆるスッチOTC薬は、厚生労働省のホームページ等で示されている約1500品目が対象となるが、

薬局等で対象医薬品を購入した際に、領収書にスッチOTC薬である旨が記載されているので、それをもって申告することとなる。

なお、申告したときの控除額は、対象医薬品の購入費用のうち1万2千円を超えた部分が総所得金額等から控除され、所得控除額の上限は8万8千円である。

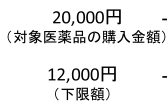
また、従来の医療費控除との併用はできないので、申告の際はどちらか一方の選択となる。

### 【採決】

採決の結果、議第125号ほか6件について、全員一致、提案理由を了とし、原案どおり可決した。

### 本特例措置を利用する時のイメージ

○ 課税所得400万円の者が、対象医薬品を年間20,000円購入した場合（生計を一にする配偶者その他の親族の分も含む）



- 8,000円が課税所得から控除される  
(対象医薬品の購入金額: 20,000円 - 下限額: 12,000円 = 8,000円)
- 減税額
  - ・所得税: 1,600円の減税効果 (控除額: 8,000円 × 所得税率: 20% = 1,600円)
  - ・個人住民税: 800円の減税効果 (控除額: 8,000円 × 個人住民税率: 10% = 800円)

出典: 厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000124853.html>)

## 厚生文教委員会

### 12月定例会付託議案審査

議第132号「三原城跡歴史公園設置及び管理条例について」

【要旨】郷土の文化遺産の保存を図り、もって市民の文化の向上に資することを目的とする三原城跡歴史公園の設置及び管理について、必要な事項を定めるため条例を制定したいとするもの。

### 【主な質疑の内容】

問 公園の使用許可の詳細については。

答 申請窓口は教育委員会文化課であり、利用時間については、天主台以外は制限していない。ただし、天主台については入口がJRの管理となっていることから、午前6時30分から午後10時までとしている。また、公園内のトイレは貸し出し対象外としており、一般利用者の使用に支障がでないように許可している。使用許可の詳細については、規則で定めていく。

議第133号「三原市印鑑登録及び証明に関する条例及び三原市手数料徴収条例の一部改正について」

は国が発行しており、紛失した際には再発行に期間を要するため、印鑑登録証として兼ねることができない。今後、市民カードは印鑑登録証に改め、窓口での印鑑登録証明書の申請の際、必要となるので、引き続き使用して頂く。

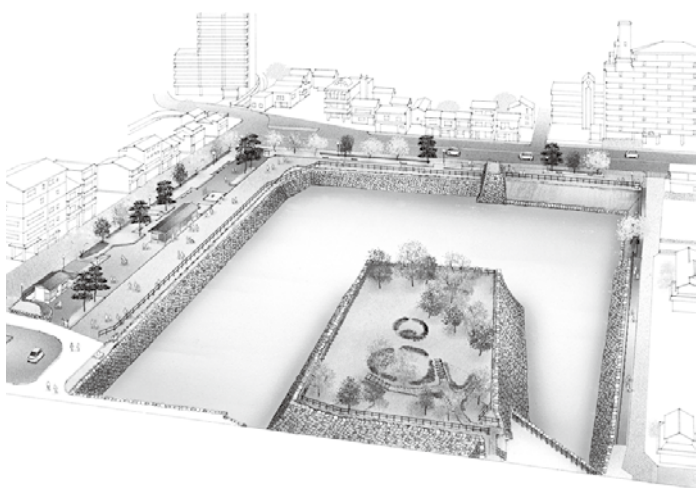
【要旨】平成29年3月6日から証明書コンビニ交付サービスを開始すること及び平成29年3月31日をもって自動交付機を廃止することに伴い、条例に所要の整備を行いたいとするもの。

【採決】採決の結果、議第132号ほか4件について、全員一致、提案理由を了とし、原案どおり可決した。

### 【主な質疑の内容】

問 市民カードの今後の取り扱いについては。

答 マイナンバーカード



三原城跡歴史公園完成予定図

12月定例会付託議案審査

議第137号 「財産の処分について」

【要旨】幸崎能地漁港改修事業に伴う造成地を売却するため、財産を処分することについて、議会の議決を求めるもの。

【主な質疑の内容】

問 売却処分される造成地の今後の使用目的は。

答 今治造船社員の住宅用地としての計画があるが、当面は社員の駐車場として活用したいと伺っている。

議第139号 「三原市道の駅の指定管理者の指定について」

【要旨】「三原市道の駅」の指定管理者を指定することについて、議会の議決を求めるもの。

問 地元地域が利用しやすい道の駅の運用を検討して頂きたい。

答 地元の有効活用は望ましいことである。公共施設上、使用にあたっては一定のルールがある

が、利用者のニーズを把握しながら、指定管理者として柔軟に対応できるような体制を検討していきたい。

問 道の駅をより活性化させるために、バス路線の設定はできないか。

答 市民や観光客と道の駅に距離感があつてはいけないと強く認識している。三原駅前から道の駅にシャトル便などを出して誘客を図るなど、来年の築城450年事業も見据えた取り組みができないか検討している。

問 今後非公募指定とするのか。

答 指定管理者の大変な企業努力により、黒字で安定した経営となつている。そのため、指定管理料をゼロとし、非公募による指定とした。今後については、向こう3年間の状況等を見定めて、次の更新時点で判断していきたい。

【採決】

採決の結果、議第137号ほか2件について、全員一致、提案理由を了とし、原案どおり可決した。

議会広報特別委員会視察報告

平成28年11月16日(土)17日の日程で、鹿児島県始良市及び霧島市へ議会広報特別委員会が視察に行きました。

始良市では、議会だよりの編集について、編集に携わる議員と意見交換を行いました。本市と編集体制・スケジュールについては、ほぼ同様なものでしたが、紙面のデザイン性、写真の配置、読みやすさの工夫、一般質問原稿の市民への示し方が参考になりました。

霧島市では、特別委員会ではなく常任委員会として設置されており、広報及び広聴のあり方についても意見交換を行いました。一方的な情報発信だけでなく、「議員と語ろう会」の開催など市民と議員の接点を広げ、より市政運営に興味を持ってもら

えるよう活動されておられ、参考になりました。また、フェイスブックなどのソーシャルメディアでの広報広聴のあり方についても、研究を進めておられました。本事例を参考に、本市議会においても、議会広報誌のあり方及び広報広聴のあり方について調査研究を行い、市民によりわかりやすく、興味深い議会となるよう探求していきます。



霧島市議会だより



始良市議会だより

駅前東館跡地活用調査特別委員会中間報告(要約)

本委員会は、平成26年12月定例会におきまして、駅前東館跡地の活用について、調査・研究を行うため、12人の委員をもって設置されました。当初、市においては、

民間による開発を通じて、駅前東館跡地活用の実現を目指しましたが、民間事業者19社に対して行った進出可能性調査などから、現在の社会経済環境下では、地方都市における民間の開発意欲は、事業成立性や採算性などにより依然として低く、民間単独での開発は困難な状況であると判断されました。

そのため、市が一部に集客効果のある公共施設を導入することにより、民間開発を促進し、民間開発事業者が提案する民間施設と公共施設の一体的な整備を行い、中心市街地のにぎわいを創出したいとの考え方が示されました。本委員会は、このような考え方をもとに市から

示された、「駅前東館跡地の活用方針案」に沿って、主に「一部導入する公共施設」、「民間事業者に対して導入を必須とする、または期待する民間施設」及び「事業スキーム」の3点に関して、調査を行っていくことといたしました。

活用方針案において、図書館については、駅前に移転することにより、現在の中央図書館の老朽化及びスペース不足などの課題解決が図られること、利便性の向上により、利用者の増加が期待できることなどを理由に、延床面積を約3千㎡と想定した図書館を整備するとの方針が示されました。

これに対して委員から、図書館では、市が考えるようなにぎわいや活性化につながる意図はないかとする意見があった一方で、駅前への立



## 新斎場建設調査特別委員会中間報告(要約)

地、また、公共交通の結節点への立地の点から、自動車や交通手段としな

い高齢者や学生等に対する利便性の向上、さらに生涯学習の拠点施設としての観点からも、駅前

の図書館は利用頻度が非常に高くなり、にぎわいが期待できるなどの理由から、導入する公共施設として

図書館を是とする意見が多数を占めました。

次に、民間事業者に対して導入を必須とする、

または期待する民間施設について、活用方針案で

ホテルを必須条件にする

と参加する民間事業者があらわれない可能性がある

ため、民間による提案施設とし、市としては必

須としない。また、その他の民間施設について

は、人が集まり、にぎわいにつながるという観点

から、各種民間施設の提案を募ることとする方針

が示されました。

これに対して委員から、民間施設として、日

常生活に密着したスパーマーケット機能を持つ物販施設、カフェ等の

飲食店、病院、フィット

ネスクラブの導入を期待する意見があり、またホテルを強く期待する意見もありましたが、ホテルを含め、民間施設部分に

関しては、民間事業者の提案に委ねるとする意見が多数でありました。

次に、事業スキームについては、土地の所有形態

については、土地は売却せず、事業用定期借地

権を設定し、民間に貸す、建物の所有形態に

関しては、民間事業者が整備後、公共施設部分の床

を市が買い取るとの方針が示されました。

これらに対して委員から、建物の所有形態に

関して、公共施設部分を市が買い取った場合の財政

縮減効果についてただされたところ、市から、公

共施設部分の設計・整備費は、買い取った場合

で14億円、賃借とした場合は17億円と試算してい

る。この3億円の差は、主に金利部分であり、財

政面からは買い取った場合のほうが有利であると

考えている、との答弁がありました。

その他多くの質疑応答

や意見が交わされ、事業スキームについては、委員会として市の方針に沿って調査を進めていくことといたしました。

以上の3項目に関する議論を経て、活用方針に

対する本委員会での調査内容を踏まえた、実施方針案が市から示されまし

た。この内容に関して、委員から、民間開発事業

者からどのような内容が提案されるのかについて

は、プロポーザルを実施するまでわからない

ため、多少の不安もあるが、本事業の目的であ

る、人が集まり、にぎわいや活性化につながる民

間ならではの提案を期待したいとする意見が出さ

れました。

市から示された内容に

対する質疑、委員間での意見交換の結果、実施方

針案について、本委員会としては、市の提案どお

り了とすることで意見の集約を得ました。

以上、駅前東館跡地活用調査特別委員会の中

間報告といたします。  
※「スキーム」とは枠組を伴った計画

本委員会は、基本計画案、基本設計案の提示にあわせ、新斎場の機能や

設備を中心に、精力的に調査し、協議を重ねてま

いりました。委員会での検討内容や意見の集約を

報告します。基本計画に係る協議検討については

は、理事者から、火葬炉数6基で整備し、セ

レモニターホールは設置せず、告別・収骨分離型と

し、40人規模の待合室を4室設置する計画であ

り、必要床面積は約2250㎡、駐車台数は43台

とし、建築概算事業費は消費税抜きで15億600

0万円であるとの説明がありました。委員から、

説明に対する意見や要望が出され、理事者から、

収骨室付近の配置を他の会葬者と交錯しにくいレ

イアウトを検討し、直葬や初七日等の簡易な儀式

については、告別室や待合室等で柔軟に運用でき

るように検討するとの答弁がありました。委員か

ら出た意見や要望を基本

設計に反映させることとし、おおむね基本計画案を了としました。

次に、基本設計に係る協議検討については、理

事者から、収骨室の出入口を別にし、他の会葬者

と交錯しないように設計変更するとともに、直葬

は告別室、初七日等の儀式は待合室を柔軟に運用

するとの説明がありました。なお、委員が建物北

側全てを7mのひさしにする必要性を質問したと

ころ、理事者から、鉄骨構造片持梁形式とRC構

造で柱を設置する場合でコスト等を比較すると、

トータルでコスト高になり、デザイン性も大きく

損なわれるとの答弁がありました。

このほか、多角的に協議・検討を重ね、基本設

計案をおおむね了としたが、理事者に対し、

本委員会が出された意見等を十分考慮したうえで、

実施設計に取りかかることを強く要望しまし

た。

本委員会としては、平成30年度中の新斎場供用開始に向け、保安林解除の課題など諸問題について理事者と共通認識を持つとともに、理事者が今後作成することとなる実

施設設計に対し、市民の理解と納得が得られるよう

な機能の充実とコストのバランスを意識しながら、

三原市における新斎場の課題解決に向けて、

引き続き調査検討を行います。

新斎場建設調査特別委員会

の中間報告といたします。

新斎場建設調査特別委員会



新斎場イメージ図

# 築城450年事業調査特別委員会 中間報告(要約)

築城450年事業調査特別委員会の中間報告をいたします。

本市発展の礎を築いた『小早川隆景公』が『三原城』を築城して、450年の節目に実施される『瀬戸内三原築城450年事業』は、わがまちの歴史、文化などの地域資源に光を当て、市内外にその魅力を発信し、『観光のまち・三原』の実現に向けての起爆剤と位置付けられております。そのためには、本事業を契機に、多くの人に本市を訪れてもらい、三原ならではの魅力に触れていただき、まちのにぎわいとつなげていかねばなりません。幸い、本市においては、市内で開催されるスポーツイベント等に、市外からも多くの人が参加されております。そのような絶好の機会を利用して、庁内各部署が連携し、本事業をPRするブースを設けたり、横

断幕を掲げたりするなどして、市内外への周知をもっと積極的に行い、一人でも多くの人に本市を訪れていただくための取り組みをすべきであります。

また、本事業は、改めて郷土の歴史認識を深めるきっかけにもなり、郷土に対する愛着心を育むことにつながります。この機会に、学校教育現場において、本市の将来を担う子供たちが、郷土の歴史、文化等について触れ、自ら学び、研究して発表するような取り組みをさらに充実させて実施することで、『ふるさと三原』に対する『誇り』と『自信』を持つことにつながります。

このように、本市の子供たちがより一層、郷土に親しむことができるような機会の充実を図り、郷土愛を醸成するための環境づくりを進めるよう、強く求めます。

断幕を掲げたりするなどして、市内外への周知をもっと積極的に行い、一人でも多くの人に本市を訪れていただくための取り組みをすべきであります。

また、本事業は、改めて郷土の歴史認識を深めるきっかけにもなり、郷土に対する愛着心を育むことにつながります。この機会に、学校教育現場において、本市の将来を担う子供たちが、郷土の歴史、文化等について触れ、自ら学び、研究して発表するような取り組みをさらに充実させて実施することで、『ふるさと三原』に対する『誇り』と『自信』を持つことにつながります。



三原城天主台跡



小早川隆景公

本委員会は、『瀬戸内三原築城450年事業』が市民、各種団体を初めとして、市内企業も含めた市民総参加のもとに成功するとともに、本事業が本市の今後の発展に向けて、未来への大きな一歩となりますことを願います。

## 次回定例会 開催予定 (平成28年12月19日現在)

月	日	曜	開会予定時刻	会 議
2	27	月	10時～	本会議 開会
	28	火		常任委員会 (総務財務委員会)
3	1	水	13時～	常任委員会 (厚生文教委員会)
	2	木	10時～	常任委員会 (経済建設委員会)
	3	金		補正予算特別委員会
	7	火		本会議 総括質問

月	日	曜	開会予定時刻	会 議
3	8	水	10時～	本会議 総括質問
	9	木		予算特別委員会
	10	金		
	13	月		
	14	火	14時～	本会議 閉会
16	木			

## 平成28年11月 臨時会議決結果

### 【賛否が分かれたもの】

議案番号	件 名	議決結果	議員名																										
			平本英司	正田洋一	安藤志保	萩由美子	児玉敬三	岡富雄	徳重政時	伊藤勝也	亀山弘道	政平智春	新元昭	高木武子	松浦良一	陶範昭	加村博志	谷杉義隆	中重伸夫	中村芳雄	岡本純祥	荒井静彦	梅本秀明	分野達見	小西真人	七川義明	寺田元子	力田忠七	仁ノ岡範之
議第115号	平成28年度三原市一般会計補正予算 (第5号)	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	○	×	○	○
議第119号	三原市特別職の職員で常勤のものとの給与に関する条例等の一部改正について	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	○	×	○	○

賛成：○ 反対：× 退席：退 欠席 (早退を含む)：欠 議長：議 (議長は採決に加わりません)

### 【全員賛成のもの】

議案番号	件 名	議決結果	議案番号	件 名	議決結果
議第116号	平成28年度三原市国民健康保険 (事業勘定) 特別会計補正予算 (第1号)	原案可決	議第118号	三原市職員の給与に関する条例の一部改正について	原案可決
議第117号	平成28年度三原市後期高齢者医療特別会計補正予算 (第2号)	原案可決	報第18号	控訴の提起の専決処分に対し、承認を求めることについて	承認



## 【賛否が分かれたもの】

議案番号	件名	議決結果	平本	正田	安藤	萩	児玉	岡	徳重	伊藤	亀山	政平	新元	高木	松浦	陶	加村	谷杉	中重	中村	岡本	荒井	梅本	分野	小西	七川	寺田	力田	仁ノ岡
			英司	洋一	志保	由美子	敬三	富雄	政時	勝也	弘道	智春	昭	武	良一	範昭	博志	義隆	仲夫	芳雄	純祥	静彦	秀明	達見	真人	義明	元子	忠七	範之
議第93号	平成27年度三原市一般会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	○	×	○	○
議第104号	平成27年度三原市国民健康保険（事業勘定）特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	○	×	○	○
議第106号	平成27年度三原市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	○	×	○	○
議第107号	平成27年度三原市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	○	×	○	○
議第120号	平成28年度三原市一般会計補正予算（第6号）	原案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	議	○	○	○	○	○	○

賛成：○ 反対：× 退席：退 欠席（早退を含む）：欠 議長：議【議長は採決に加わりません】

## 【全員賛成のもの】

議案番号	件名	議決結果	議案番号	件名	議決結果
議第94号	平成27年度三原市ケーブルネットワーク事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第114号	平成27年度三原市本郷町北方財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	認定
議第95号	平成27年度三原市公共用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第121号	平成28年度三原市簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決
議第96号	平成27年度三原市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第122号	平成28年度三原市土地区画整理事業特別会計補正予算（第1号）	原案可決
議第97号	平成27年度三原市港湾事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第123号	平成28年度三原市公共下水道事業特別会計補正予算（第2号）	原案可決
議第98号	平成27年度三原市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第124号	平成28年度三原市水道事業会計補正予算（第1号）	原案可決
議第99号	平成27年度三原市土地区画整理事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第125号	三原市職員の勤務時間、休暇等に関する条例等の一部改正について	原案可決
議第100号	平成27年度三原市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第126号	三原市税条例等の一部改正について	原案可決
議第101号	平成27年度三原市漁業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第127号	三原市国民健康保険税条例の一部改正について	原案可決
議第102号	平成27年度三原市農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第128号	広島県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び広島県市町総合事務組合規約の変更について	原案可決
議第103号	平成27年度三原市小型浄化槽事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第129号	三原市立沼田東小学校耐震改修工事（建築主体工事）請負契約の変更について	原案可決
議第105号	平成27年度三原市国民健康保険（直営診療施設勘定）特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第130号	財産の処分について	原案可決
議第108号	平成27年度三原市東町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第131号	財産の処分について	原案可決
議第109号	平成27年度三原市中之町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第132号	三原城跡歴史公園設置及び管理条例制定について	原案可決
議第110号	平成27年度三原市沼田西町松江財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第133号	三原市印鑑登録及び証明に関する条例及び三原市手数料徴収条例の一部改正について	原案可決
議第111号	平成27年度三原市小泉町財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第134号	三原市デイサービスセンターわたせの指定管理者の指定について	原案可決
議第112号	平成27年度三原市本郷町本郷財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第135号	三原市デイサービスセンターさぎうらの指定管理者の指定について	原案可決
議第113号	平成27年度三原市本郷町船木財産区特別会計歳入歳出決算の認定について	認定	議第136号	三原市北方グラウンド・ゴルフ場の指定管理者の指定について	原案可決
			議第137号	財産の処分について	原案可決
			議第138号	字の区域の変更について	原案可決
			議第139号	三原市道の駅の指定管理者の指定について	原案可決

### 編集委員のつげやき

足湯（脚湯）が道の駅「みはら神明の里」に設置される運びであります。

足湯は、のぼせを防ぎ、発汗を促す働きがあり、頭に血がのぼってぼうつとする、上気するなど効果があると言われています。

最近、足湯場に老若男女が湯に浸かって、なごやかな雰囲気の下でコミュニケーションができると言われています。

神明の里の足湯場は、風光明媚な瀬戸内海を臨みながら、人々に愛され、観光客の増につながればと期待されています。

力田 忠七

### 議会広報特別委員

正田 洋一・伊藤 勝也・児玉 敬三  
岡 富雄・亀山 弘道・寺田 元子  
力田 忠七

※「市議会だより」は、市役所1階ロビー・各支所・サンシープラザ・中央公民館・各地のコミセンでも配布しております。

### 三原市議会広報特別委員会

三原市館町二一五一

TEL 67-6137

FAX 63-4545

## 地域との「絆」を大切に

私は、7月中旬、久井稻生神社で400年余り続く伝統行事「祇園祭り」の杖使いに初めて参加しました。

祇園祭りは、ササノオノミコトをまつる神社にほうのうされる祭礼であり、1522年に、高根山城主であった山名氏が稻生神社に参拝した時、ほうのうしたことがはじまりだったそうです。今では、久井町の夏を彩る夏祭りとなっています。杖使いは、頭に鳥毛のようなかざりに、はちまき・たすき・はかま姿の独特な衣装で踊ります。

現在は、少子高齢化で踊り手が少ないため、地域の方々には、伝統を伝えていくために一生懸命教えてくださいます。私達はその思いに心え、伝統を受け継ぎ、次の世代に伝えていかなければいけないと思います。

当日は、町内町外からもたくさんの方が、稻生神社に訪れていました。踊り終わった後、知らない人から、「よかったよ。」と、笑顔で声をかけられました。「ありがとうございます。」と、素直な気持ちで返せました。ほんの少しの会話だったけれど、とてもうれしくなりました。

練習前までは正直、参加したくなかったけれど、一生懸命練習し、踊り終わった後は、とても暑く、同時に、すがすがしい達成感を味わえ、言葉で表せないくらいうれしい気持ちになりました。

この3日間の練習や踊りをする中で、大切なことを学びました。それは、伝統だけではなく、地域の方々との「絆」です。今では踊りを教えるてくださった方々や、地域の方々が、「元氣かあ。」と、肩をちょんちょんとして、「勉強がんばれよ。」と、声をかけてくださいます。私は生まれてから今まで、いつも家族以外にも地域の方々、学校の先生方、皆さんにお世話になり、温かく見守られているということを強く感じました。私達は、地域の方の支えがあり、そして、この町とともに、生かされ、かがやき、成長しているんだと思います。

私達は、大人のように、働くことや、ふるまうことはできないけれど、地域の伝統を受け継ぎ、伝えていくことはできると思います。みんなが手をつないで、助け合い生きていける、温かい人間社会を目指して、努力して、小さなことを積み重ねがなっていきたいと思います。



# わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します  
— 連載第28回 —

## 今の自分を見つめて

「今日は、卒業式までちょうど3か月前の日ですよ。」と先生に言われて、私は、はっとしました。そして、今の自分を振り返ってみました。

1学期、2学期の学習の仕方は、5年生の時から大きく成長していると思います。そのわけは、ペアトークやグループ学習の話し合いを通して自分のまちがただでなく、どこでどのようにまちがえたのか詳しくわかるようになったからです。もう一つは、これまでにないほど発表がたくさんできるようになったからです。発表することで、まちがえている所を教えてもらえたり、共感してもらえたりして、すごく自信がつけました。

次に、クラスや学年の団結を振り返ると、「努力は、たし算」「協力は、かけ算」の目標に向かって、楽しくやる時は楽しく、本気でやる時には本気で、クラス全体ができるようになったことです。でも、学年全体では、まだ少し課題もあったなあと反省することもできました。

最後に、卒業に向けて、これからの私たちの課題は3つあります。一つ目は、もっとみんなで団結し、中学でも仲良くなれるようになっていくということ。

二つ目は、自分のしなければならぬことを自分で考え判断して、次のことを考えて行動すること。三つ目は、自分だけでなく周りの人のことも考えて行動することができるようになることです。

他にも、やりきらないといけない課題はたくさんありますが、この3か月を自分なりに工夫して一生懸命過ごすことは、私にとっても大切になると思います。だから、時間を大切に使いながら、悔いの残らない卒業式を迎えたいです。

